

大会イメージソングの歌詞を手がけた  
高校生作詞家とプロの作曲家が初対面！

# 現役トッププロと 未来の才能の クロストーク

応募総数857点の中から選ばれた、とうきょう総文2022のイメージソング  
『きみへつなぐ』を作詞した高校生。  
そんな若き才能をもつ高校生と、作曲を担当した音楽家が対談しました。

## それぞれの作詞・作曲についての感想は？

**相澤** 遠藤くんが書いた「きみへつなぐ」の歌詞、すごくオリジナルティーがあって良かったですね。僕は最終選考から審査に加わったんですが、疾走感とか時の流れとか風景とか、詞に込められた情景が鮮明に浮かんで、直感的に「あ、これかも」と感じたのを覚えています。

**遠藤** ありがとうございます。軽音楽部なので普段から作詞作曲をしているんですが、作詞には全然自信がなかったのが嬉しいです。

**相澤** でも書いている時はポップスのイメージだったでしょ？

**遠藤** はい、ポップスのイメージでした。伝わっていたんですね。

**相澤** 軽音楽部だとかは知らなかったけど、なんとなくそうかなって。だからサビの部分にはポップスっぽいコード進行を残してみたんだよね。

**遠藤** 汲み取っていただいてありがとうございます。だけど正直言って、(詞の)あの部分がサビになるとは思っていませんでした。

**相澤** うん、それもわかってました(笑)。だけど音楽的な段落などの兼ね合いで、変えさせてもらったんだよね。その分一番最後に大サビを作って、曲全体で最後に向かって盛り上がるように構成してみました。

**遠藤** 初め聴いた時はびっくりしました。「そう来るんだ！」って。やっぱり凄いな、さすがだなんて。いつも曲を先に作るの、今回



のように詞を先行して書くこと自体が新鮮でしたし、さらにプロの方に曲をつけていただくなんて普通できない経験なので、驚きの連続でした。

**相澤** 逆に僕は、曲を先行して作るってということがないんですよ。クラシックの場合は、ほぼ100%先に詞があって、そこから曲を作るから。よく「ゼロから曲を生み出せて凄いですね」と言われるんですが、実際には詞からイメージを膨らませて曲を書いていくんです。だから今回の遠藤くんもそうだけど、本当にゼロの状態から詞を書けるっていうのは、素直に凄いなと思いますよ。

**遠藤** ありがとうございます。苦労した甲斐がありました。苦労した分、曲を聴いた時は凄く感動しました。僕の書いた詞に肉がついたと言うか、血が通ったと言うか。

**相澤** その言葉選びも高校生とは思えないね(笑)。やっぱり詞を書く人ってそうなんだよな。今回はどんなイメージで書いたの？

**遠藤** 総文に向けて努力している高校生への応援歌というか……。頑張っている時のスポーツドリンクみたいに、傍らにあったらちょっと安心するような、そんな曲になるといいなと思っていました。あとは「東京」をどう表現しようか悩んだんですが、やっぱり東京って憧れの対象で、みんなが目指す場所なんだ、と改めて気付いて。そんなタイミングで、たまたま家族旅行に行ったんです。その帰りの車の中で、段々と東京が近づいてくるっていう状況にインスピレーションを受けて、その場で一気にバーっと書いてから、少しずつ細部を整えていきました。

## 音楽を始めたきっかけは？

**相澤** 遠藤くんはなんで音楽を始めたの？

**遠藤** 僕は小さい頃から、とにかく音の出る玩具が好きだったみたいで、みんなが特撮モノとかアニメとかの影響で戦いごっこをしていた頃に、ずっと玩具のギターや太鼓で遊んでいたそうです。それからトランシーバーにはまったりしながら、自然と音楽を始めました。おかげで今でもマイクマニアです(笑)。

**相澤** そうなんだ、今度いいマイク教えてください(笑)。僕も遠藤くんと一緒に、小さい頃、家にあった祖父のハーモニカでよく遊んでいたらしいんですよ。それで、なんとなく音楽が好きそうだからピアノ教室に入れられたのが始まりで、単純に楽しくてずっと続けていたんです。

それから高校で進学校に入るんだけど、周りとの学力の差に挫折しちゃって。それで進路とか色々悩んでいる時に、ある人に「相澤くんはいいよね、音楽の道もあるし」って言われ、そこで初めて音楽の道を意識して、音大へ進学しようと思いました。

でもピアノ科は小さい頃から英才教育を受けているようなレベルじゃないとまず無理。じゃあ今から準備して可能性のある科にしようってことで作曲科を選び、そこから作曲の勉強を始めました。今の遠藤くんと同じ高校2年生の頃ですね。

**遠藤** そうだったんですね。英才教育を受けて育ってきたんだと思ってたので意外です。

## 将来をどういう風に考えている？

**相澤** 遠藤くんは、今後も音楽を続けていきたいと思ってる？

**遠藤** もちろん好きなので続けていきたいですが、それで食べていくとか、将来のことまでは考えられていないです。だけど昔から何かを創る、アイデアを形にするっていうことが大好きなので、例え音楽じゃなかったとしても、漠然と何かを創る仕事に就きたいと思っています。でも今はがむしゃらに音楽を創って歌っているだけなので、そろそろもっと深く考えないといけないですね。

**相澤** それが一番幸せな時間だよ。僕なんて締切のことばかり考えているから(笑)。だけど音楽のような目に見えない何かをがむしゃらに創るっていうことは、素晴らしいことじゃないかな。

多分、世の中で本当に大切なことって、目に見えないものばかりなんですよ。クサイこと言うけど、例えば友情だったり勇気だったり、努力だったり、夢だったり。だからそういう、目に見えないものを創ることに情熱を傾けることができるっていう感覚は、凄く価値のあることだと思う。もちろん、じゃあ情熱だけあれば音楽で食べていけるかっていうと、それはまた別問題なんだけど、目に見えないものを美しく創りたいっていう情熱の根本は忘れないで欲しいな。そうすればきっと、例えそれが音楽じゃなかったとしても、価値のあるものを生み出し続けていけると思うから。

**遠藤** ありがとうございます。凄く胸に響きました。今日のこの貴重な時間を励みに、これからも頑張ります！



みなと  
**遠藤 海風斗**

東京都立昭和高等学校2年

軽音楽部に所属する高校2年生。音楽活動では主にギターを使用しつつ、作曲はもっぱらラップトップPC、作詞はスマートフォンで行うことが多いとか。好きなバンドはMr.Children。プレイヤーであると同時にマイク好きでもあるという根っからのサウンドマニア。

**相澤 直人**

作曲家

東京藝術大学音楽学部作曲科及び指揮科卒業。JCDA日本合唱指揮者協会副理事長、東京都合唱連盟理事。また、東京藝術大学及び洗足学園音楽大学講師、ニューヨーク合唱フェスティバルシニアアドバイザーなどを務める。指揮者としても作曲家としても、国内外で活動中。東京都立八王子東高等学校卒業。